

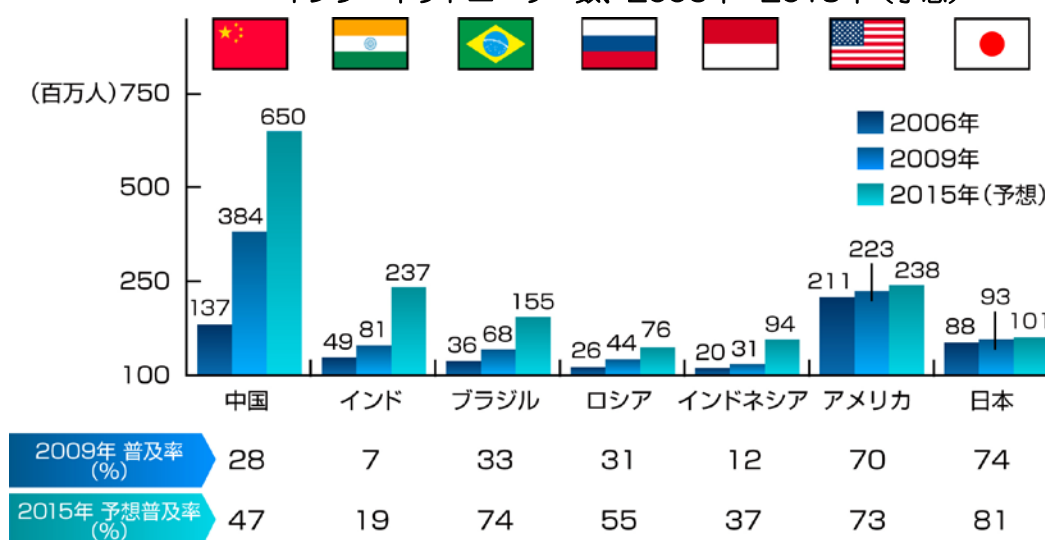
Twitterが世界で最も普及している国

新興国でインターネット利用者が急増しています。BRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国）とインドネシア、米国、日本の7カ国について、2009年と2015年（予想）のインターネット利用の普及率を比較すると、米国と日本はすでに普及率が高いために伸びが限られる一方で、BRICsとインドネシアは普及率の大幅な伸びが予想されています。

ボストン コンサルティング グループ(BCG)の調査によると、ブラジルとロシアでは2015年、インターネット普及率が5割を越え、中国でも半数近くがインターネットを利用すると見込まれています。インドやインドネシアでは2009年の普及率がそれぞれ7%、12%にとどまっていますが、2015年には普及率が19%、37%まで上昇し、わずか6年の間に利用者が約3倍となると同社は予測しています。

新興国の中にはすでに先進国を上回って普及しているインターネットサービスもあります。例えば、利用者が140文字以内で「つぶやき」を投稿するコミュニケーションの手段として知られているツイッター（Twitter）。世界にはツイッターの利用者が約1億人いると言われていますが、普及率が最も高い国はインドネシアで、ブラジルが続いています。今後、新興国で始まったインターネットサービスが先進国に本格的に上陸する日がすぐそこまで来ているのかもしれません。

インターネットユーザー数、2006年～2015年（予想）



出所：Ministry of Industry and Information Technology、iResearch、Internet World Stats、EIUのデータを基にBCG作成

新興国の株価指数を「グローバルマップ」でチェック www.gsam.co.jp